〈研究ノート〉

フリーライティングにおける辞書使用に関する一考察

A study on making more effective use of English dictionaries in free writing

村　上　佳寿子
Kazuko MURAKAMI

1．辞書の変遷と辞書使用

英語教育の現場において、学習者の辞書使用法が問われている。英語教育において使用する辞書は、長い間冊子辞書が中心であった。しかし、1990 年代後半から電子辞書が出回り、2007 年の出荷台数は 280 万台を超えピークを迎えた。その後、出荷台数は毎年減少しながらも、2010 年までは 200 万台を維持した。2011 年以降は、減少傾向を示しながら隔年で増加と減少を交互に繰り返し、2016 年の出荷台数は 112 万台となった[1)]。2015 年の 116 万台からわずか 4 万台の減少であることからも、ほぼ横ばい傾向を示していると言える。この数値から電子辞書の需要がほぼ定着してきたと考えられる。

一方で最新の辞書メディアとして、辞書アプリやウエブ辞書などが存在する。『英語辞書マイスターへの道』によると、アプリの歴史については、1990 年代後半に、CD-ROM ドライブがパソコンに標準搭載される

ようになり、冊子辞書の中身をそのまま収録することが可能となったこと、そして2000年代に入り、パソコンやスマートフォンでネットに常時接続することが普通になり、低コストで使用できるウエブ辞書が普及してきたことが記載されている。また、前述の書籍ではウエブ辞書の歴史についても、「初期のウエブ辞書では、冊子辞書のデータをそのまま使ったものは会員制の有料サービスになっているものが多く、月単位、年単位で高額な利用料金を払う必要がありましたが、最近では、広告が表示されるかわりに無料で使えるものが主流になっています。」と記している。辞書アプリやウエブ辞書にも、冊子辞書や電子辞書と同様に、それぞれにメリット・デメリットがある。見やすさや利便性を考えて、用途に応じて辞書アプリやウエブ辞書を大いに活用すべきであると考えている。しかしながら、大学の授業で使用する辞書としては、使用環境の問題や教育効果を鑑みて、従来の冊子辞書と電子辞書を主たる辞書と考えて、使用促進のために指導を継続している。英語学習者は、冊子辞書か電子辞書のいずれか、また両方を活用することにより、さらなる英語力向上に向かう道筋を発見するに違いない。したがって本稿では辞書として冊子辞書と電子辞書の2種類を念頭において、論を進めていく。

カシオ計算機の2016年の調査では、英語や国語、古語など複数の辞書を必要とする人たちから支持を得た結果、高校生の約6割、大学生の約8割が電子辞書を所有するに至ると伝えている[2)]。では、本学の学生はどの程度電子辞書を所有しているのだろうか。本学3学科の1年生について、いくつかのクラスで調査を行った。教養学科1年生の必修科目、「綜合英語I、II」のCクラス8組の35人については、22人が電子辞書を所有している。経済学科1年生の選択科目、「ビジネス英語I、II」のAクラスでは36人中27人が、Bクラスでは22人中14人が電子辞書を所有している。英文学科1年生の必修科目「ReadingI、II」のAクラス1組では、14名中12人が、また、英文学科の必修科目「WritingI、II」

のＤクラス７、８組では 23 人中 19 人が電子辞書を所有していた。これらの数値からも、電子辞書を所有する学生が、前述のカシオ計算機による調査結果とほぼ同様に、あるいはそれ以上に、本学においても多数存在する状況を認識することができる。さらに、電子辞書を所有する学生のほとんどが冊子辞書も所有していることが、授業での聞き取りからわかった。両方の辞書を所有する中で、両辞書を使いこなせているのか、電子辞書の所有は電子辞書の使用と合致するのか、使い分けができているのか、できているならどのように選択して使用するのか、という疑問が生まれる。これらの疑問に対する答えを模索しつつ、英文学科１年生の授業、「Writing I、II」のフリーライティングの内容を辞書と関連づけながら述べていく。

本学英文学科１年生の必修科目「Writing I、II」の授業において、テキストと並行して定期的にフリーライティングを行っている。ここでいうフリーライティングとは自分の考えを自由に英語で書くことと定義する。このフリーライティングには３つの条件がある。まず、第１の条件は辞書を使用しないこと、第２は消しゴムを使用しないこと、第３は制限時間内に書くということである。この３つの条件の下で行ってきたフリーライティングでは、ほとんどの学生が回を重ねる毎に、単語数を増加させていくという結果を残した。さらに、クラス全員の単語数から算出する回ごとの平均単語数も、コンスタントに増加したという成果をあげた。この内容の詳細については後の章において言及するが、辞書を使用せずに行ってきたフリーライティングは、量的向上という一定の教育効果を表したと言うことができる。しかしながら、単語数は増加したが、実際には伸び悩みの傾向が一部に見受けられたのも事実である。また、書かれた英文の内容についてはどのように評価すると良いのかという疑問も生じてきた。そこで、伸び悩みの傾向と書かれた英文の内容に変化はあるのかについての手がかりを探すために、フリーライティングにお

ける辞書使用を許可する試みを実施することにした。

本稿では制限時間を設定したフリーライティングにおいて、辞書を使用する、辞書を使用しない、この２つの方法によって学生が書いた英文を多面的に捉え、比較考察し、今後の指導方法の改善に向けていくものとする。

２．フリーライティングの指導過程と辞書使用

制限時間を設定して、その時間内に書かれるフリーライティングにおいて、辞書使用の可・不可が与える影響についての文献を見てみる。制限時間を設定して行うフリーライティングについて、辞書使用のメリット、デメリットはそれぞれある。國吉(2003)は、制限時間を設定して行うフリーライティングでの辞書使用については、非常に時間がかかることと、必要以上に難しい単語を使いたがる傾向が見られることにより禁止したとしている[3)]。しかし、事前にテーマを提示し、学生が必要とする単語を調べて単語リストを作るという自習の機会を与えることにより、英文を書くための準備として辞書使用を促進している。井之川(2009)は、辞書を使用して書かれた英文と使用せずに書かれた英文において、評価に有意差は認められなかったと言及し、スペリングミスは半減するものの、記述量の差が現れたと指摘する。さらには辞書を調べたことが原因と考えられる語彙選択の誤りが見られたと述懐する[4)]。

これらの研究を踏まえ、筆者が担当する「Writing I、II」の授業において、制限時間を設定して時間内に書くフリーライティングでは、辞書を使用しないことを選択して行うこととした。理由は３つある。第１に英文を書くためにすべての時間を使用できる。第２に書きたいことの内容に集中できる。第３に書きたい単語が思い浮かばないことが、後に自ら進んで学習する意欲に繋がり、学びのモチベーションとなる。以上のことから、辞書を使用しないでフリーライティングを行う方法が記述量、

つまり単語数が増加するとの考えに基づいて継続して行ってきた。

過去2年間において、フリーライティングで学生が書く英文の単語数の平均を見ると、最終回の単語数が初回の単語数を大幅に上回る結果となっている。ここで、2017年度後期の数値を詳しく見ることにする[5)]。2017年9月21日から11月30日までに4回行ったフリーライティングにおいて、学生が書く英文の単語数の平均は第1回が38単語、第2回が46単語、第3回が58単語、第4回が64単語であった。このように平均値は第1回から回を重ねるごとに着実に増加している。第1回の最多単語数は72、最少単語数は9であった。第2回の最多単語数は89、最少単語数は14、第3回の最多単語数は102、最少単語数は23、第4回の最多単語数は104、最少単語数は32であった。

しかし、個別に第1回から第4回までの数値を見ていくと、中には第4回の単語数が第1回よりも減少している学生が2人いた。これは全体の9％にあたる。また、4回行われたフリーライティングの中で、1度は単語数が減少したが再度増加に転じて、最終的に第1回より第4回の単語数が増加した学生は14人いた。全学生23人のうち61％を占める。さらに、初回から1度も単語数を減少させることなく増加を継続できたのは23人中の7人であり、全体の30％であった。しかし、この7人のうち3人の学生は1回ないしは2回授業を欠席しており、4回すべてを行っていないということを付記しておく。このように、第1回と第4回の単語数を比較して、1回目より4回目に増加した学生は23人中21人にのぼり、91％を占めた。

次に、書かれた単語の増加数を個別に見ながら、特徴的な例について言及する。ある学生は第1回の34単語から、第2回に89単語、第3回に102単語、第4回では104単語にまで語数を伸ばした。初回から実に70単語の増加を示し、第1回の単語数を3倍以上にまで引き上げた。ここで、毎回のフリーライティング後に書くことになっている本人の日本

語コメントを見ることにする。第1回で34単語しか書けなかったことを次のように記している。「まったく書けなかった。一文が短いので、長く書く練習をすることが大切だと思う。てんぱってしまったので、もう少しおちついて書く。いつフリーライティングがあってもいいようにする！」である。第2回では89単語を書いて、「beautifulなどの単語が多すぎて幼稚な文に見える。かっこいい文をかけるようになりたい。」と書いた。目標として「かっこいい文」を掲げている。第3回に102単語に到達した後のコメントでは、「字がきたいので、もう少し意識して書きたいです。もっと頑張りたいです。」と書き、成果の積み重ねがやる気につながっている様子が伺える。第4回では104単語を書き、「次は暗記しないで書きます！　もう少していねいに。最初に書くことをしっかり決める。」と述べている。

その一方で、第1回で38単語を書いた別の学生は、第2回、第3回も同じく38単語、最後の第4回で49単語を書いて11単語の増加を示した。しかしながら、前述の学生が初回34単語から104単語まで伸ばしたことと比較すると、伸び悩みの傾向が見えると言わざるをえない。ここで、この伸び悩みの傾向がある学生の日本語コメントを見てみる。第1回は「久しぶりに書いてみて、全然頭に浮かばなくてびっくりした。書き出しが失敗してしまった。」、第2回は「同じようなことを書いてしまった。文の種類も一定になってしまった。」、第3回は「事前に書いたことの記憶が途中からとんで予想で書いてしまった。一文が短く終わっているので、長くしたいと思う。」、そして第4回は「I want to ～や、I will ～の文が続いてしまって文が同じ感じになってしまったのがだめだと思った。いろいろな表現で文章を書きたいなあと思いました。」であった。コメントを読むと、第3回から事前に準備をしてきたことがわかり、第4回では、いろいろな表現で書きたいと意欲を見せるまでになり、11単語の増加につなげたことがわかる。前述の単語数を3倍以上に伸ばし

た学生と第１回のコメントを比較すると「まったく書けなかった。～中略　～いつフリーライティングがあってもいいようにする！」とすぐに次回に向けて気持ちを切り替えることができたことに対し、「全然頭に浮かばなくてびっくりした。」とその時点での感想だけで終始しているという相違がある。スタート時点では伸び悩んでいる学生の方が38単語を書いており、他の学生は34単語であった。差と言えるほどの差ではなく、フリーライティングの単語数を見る限り、ほぼ同等の英語力であったと言える。さらにつけ加えるならば、この２人の学生の日常的な授業態度の差にも言及しなければならない。両学生はまじめ授業に出席して、ほとんど欠席することはなかった。２人には決まった学生が常に隣に座っており、教室内で着席する位置もほぼ決まっていた。ここまでは２人の学生にほとんど差異は認められないが、大きく違っていた点が１つある。それは辞書の使用についてである。授業においては辞書を必ず持参することが決まりであり、電子辞書の音声機能を除いて、いつでも冊子辞書、電子辞書を見て良いことになっている。しかし、それにもかかわらず、伸び悩み傾向を示す学生は辞書を忘れることもあり、持参してきても自分からすすんで見ることは少なかった。このように、意欲の差はいうまでもなく、辞書使用頻度の差も大きかったと言えるのではないかと推察する。

この学生が第１回に書いた英文を見てみる[6)]。文全体に影響を及ぼさない部分的なエラーが多い。このような文法的エラーをBurt（1975）はlocal errorと言い[7)]、コミュニケーションを阻害しないとしている。一方、文全体に影響を及ぼし、コミュニケーションを阻害する可能性があるエラーをglobal errorとしている。この学生が書いた英文、And I like cherry <u>blossom</u>. の下線部は単数形ではなく複数形が正しい。さらに、There is a cherry <u>blossom</u> tree near <u>the</u> my house. とあるが、下線部の２つの単語は不要である。このように小さな誤りであり、いわゆるケアレ

スミスと呼ばれる類のエラー、local error が散見された。

さらに、伸び悩み傾向にある別の学生を見てみる。この学生は、第 1 回 47 単語、第 2 回 44 単語、第 3 回 53 単語、そして最終回の第 4 回に 56 単語を書いた。最終的に 9 単語の増加は見られたものの、伸び率は低いと言わざるをえない。コメントを見てみると、第 1 回「語数が少なかった。書くのが遅くて書きたいことを書けなかった。」、第 2 回「語数が少なかった。用意が足りなかった。簡単な文でしか書けなかった。」、第 3 回「準備が足りなかった。もっと色々な単語や文法を使いたかった。夢が少なかった。Writing の教科書の活用のところを見直してもっと練習する。」、第 4 回「ありきたりなことしか書けなかった。5 年後の自分がイメージしにくくて難しかった。」のように、1 回目、2 回目には、書けなかった感想だけが記入されている。しかし、第 3 回になって、意欲の表れが見える記述もあり、それが最終的な単語数の増加に影響したと考えられる。

この学生の書いた第 1 回のフリーライティングを見てみると、こちらは local error と、global error が混在する[8)]。たとえば、学生が書いた英文の一部を抜き出して見ると、I like summer the best. Because tempalture is just good. とある。ここでは接続詞 Because に導かれる従属節を独立した文としているため、global error である[9)]。次の下線部のスペリングは“temperature”と書くのが正しく、local error である。さらに、For example, summer festival, a fireworks display, BBQ, camping, driving, to go sea, and fireworks. の文を見ると、summer festival については、“a”、または、“s”のつけ忘れであり、これもスペリングミスと同様の local error である。しかし、次の to go sea は、go to the sea となるため、語順の誤りにあたる global error となる。

ここで、単語数を 3 倍に伸ばした学生の第 1 回を見てみる[10)]と前述の 2 人と比べて global error が多いことがわかる。最初の英文には、I like

best season is spring. とある。下線部の一般動詞と be 動詞が共起しているため global error である。次の英文、Because it is beautiful season.の下線部 Because は、前述と同様に、接続詞 Because に導かれる従属節を独立した文としているため、global error である。さらに、It is enjoy Hanami. の英文も、第 1 文と同様の一般動詞と be 動詞の共起が見られるため、global error である。ローマ字表記の Hanami は local error である。

3 者の第 1 回のフリーライティングを比較してみると、Burt(1975)の主張する、文全体に影響を及ぼし、コミュニケーションを阻害する可能性があるエラー、global error が多かったのは、単語数を飛躍的に伸ばした学生だった。佐藤(2011)は習熟度別に上位群と下位群とを分けて行った、英文法力とライティング力の相関関係についての研究で、「主語、動詞などの必要不可欠な要素の欠落や、be 動詞の誤使用といった global error が下位群に特徴的にみられる。」と言及する[11)]。このことから、第 1 回に global error が多かった学生は、内容の質的観点からして、local error が多かった学生や、両方のエラーが混在していた学生よりも、書いた英文に関しては下位群の特徴をより示していたと言うことができる。しかし、量的な面では英文を書く力は伸ばすことができており、今後の質的な力の向上が課題となる。一方、伸び悩みの傾向を見せた 2 人は、第 1 回から local error つまりコミュニケーションを阻害しないとするエラーが多かった。佐藤(2011)は、英文法の基本を身に付けていない学生がよく犯すエラーでは、辞書指導も含めた指導が必要であると述べている[12)]。このような local error については、辞書使用によってある程度軽減することができるのではないかと考える。

これまでの授業において、辞書を使用せずに行ったフリーライティングで、多くの学生が回をかさねるごとに単語数を増加させたことが確認できた。しかしながら、辞書を使用せずに英文を書く際に、すぐに使え

る単語が限られており、かつ、単語数の伸び悩みが認められる例も存在した。このような状況を、一度辞書使用を認めてフリーライティングを行うことにより､少しでも改善することができるのではないかと考えた。そこで制限時間内に書かれるフリーライティングにおいて、辞書を使用することにより、記述量を増加させることが可能であると仮定して実施し、結果を考察する。

3．フリーライティングにおける辞書使用

2017 年 12 月 14 日と 12 月 21 日の 2 回にわたり、辞書を使用したフリーライティングを行った。前述のフリーライティングの 3 条件のうち、制限時間 5 分間と、消しゴムを使用しないことは変わらず、辞書使用のみを許可した。辞書使用のフリーライティングにおける第 1 回のテーマは、“Christmas”であり、その場で与えて実施した。22 人の学生の書いた平均単語数は 40、最多単語数は 73、最少単語数は 11 だった。同時に行った辞書に関するアンケートでは、22 人の学生の内、辞書使用が良いと思うと答えた学生は 12 人であり全体の 55％を占めた。主な理由は「単語を調べることができる。」「間違いが減る。」「正しい単語を書いて安心する。」「精神的に余裕が持てる。」「単語が浮かばずに中断することを防げる。」であった。辞書使用が良いとは思わないと答えた学生は 9 人であり全体の 40％に当たる。主な理由は「調べるのに時間がかかる。」「書く単語数が少なくなる。」「辞書を使う時間がなかった。」「途中で中断せずに書きたいから。」であった。「辞書使用は良いけど良くない。」と書いた学生が 1 人いた。理由は「内容を考えながら辞書を引くと時間が短く感じたから。」であった。その他にフリーライティングについての自由なコメントには、次のようなことが書かれていた。「あらかじめ自分で文法や語彙を辞書で調べたほうが身に付くと感じた。」「辞書があると調べる時間が取られるから、いらないかなと思った。」「意外と

辞書を使わないことに驚きました。」「辞書ありで５分間やったけど、内容を考えながら辞書を引いたりするので５分は短いなと感じた。テーマをすぐ言われて取り組むことで、自分の力を試すことができるのは良いと思った。（実際英文を書くときは事前の準備はしないと思うので）。」「想像力をもっと豊かにしたいです。また同じような単語ばかり使ってしまったので、もっといろいろな単語を覚えて使えるようにしたい。」「焦る気持ちが表れる。早くひかないと！ってなる。構想を考えるのに必死だから使うヒマもない。」「いきなりフリーライティングをやるとなったら辞書があっても書けないと思いました。」「辞書に熱中しすぎて時間があっというまだった。」「辞書を使ったほうがたくさん書けそうなイメージがありましたが、そうでもありませんでした。」である。このように、様々な感想や意見が記入されており、反響は予想以上に大きかった。

以上のことから初回の辞書使用に関してまとめると、学生の半数以上が辞書使用について良いと答え、単語を調べられることが良いと評価した。しかしながら、予想以上に時間を費やしてしまい、英文を書く時間が少なくなり、期待したほどの記述量には至らなかったと予想に反する結果に落胆し、辞書使用の可否を判断しかねる様子も見受けられた。

この１週間後に、辞書を使用するという前回同様の条件の下で２回目のフリーライティングを実施した。ただし、テーマ“Winter Vacation”を事前に知らせて、準備の時間を十分に確保できるようにした。18 人の学生が書いた平均単語数は 73、最多単語数は 105、最少単語数は 15 であった。再度行った辞書使用についてのアンケートでは、18 人の学生の内、辞書使用が良いと思うと答えた学生は８人であり全体の 44％であった。前回と比べると 11％減少している。主な理由は前回とほぼ同様であった。辞書使用が良いとは思わないと答えた学生は３人で全体の 17％であった。前回の 40％と比較すると 23％の減少を示した。その理由は、「５分間では調べる余裕がないので必要ない。」「辞書を調べるより書く

ことに専念したい。」であった。辞書を使用するのも使用しないのも両方とも良いと答えたのは、２人の学生であった。そのうち１人の学生の理由は「どちらも学びに繋がるから両方とも良い。」としている。もう１人の学生の記入はなかった。今回はどちらともいえないが５人いた。このような結果から、辞書使用が良いと良くないの両方の支持が減少し、その数値が、両方とも良い、どちらともいえない、に移行したと推測できる。今回の辞書を使用して書くフリーライティングについての自由記述には、以下のようなものがあった。「予習してきたけど忘れた単語を思い出すために辞書が使えて便利だった。」「以前よりもたくさん書くことができました。辞書が役立ちました。フリーライティングが楽しかったです。」「辞書ありで、テーマは当日発表が良いと思った。自分の考えた、思った文にして書くことは、ライティングだけではなくスピーキングのときでも、そうやって瞬時に考えたことが英語として使えるようになりたいなと思った。」「辞書を使うとミスが少ないけど単語数はかせげないと思いました。少しずつでも語数が増えてうれしいです。」「フリーライティングは突然やったほうがやりやすいです。自分の英語力を確認できます。」「紙の辞書は全てを頼らないで引けるから能力向上に繋がる。電子辞書はいろいろ出てくる。便利すぎる。」である。

２回目の辞書使用のフリーライティングに関しては、前回とほぼ同様の記述が理由としてあり、大きな差はなかった。特筆すべきは、両方良いと、どちらとも言えないを合わせると７人になり、全体の 39％を占めたことである。

４．辞書使用に関する考察

これまで行ってきた辞書を使用しないフリーライティングの単語数と、今回の辞書を使用したフリーライティングの結果を比較する。

後期の第１回９月 21 日のテーマは、３つの中から１つをその場で選

択して書く方法であった。３つのテーマは以下の通りであるが、３を選択した学生は１人もいなかった。

１．Do you prefer cats or dogs? Why?
２．Which season do you like best?
３．Explain why it is important for you to learn English.

２回目以降は事前にテーマを知らせ、準備の時間を十分に取れるようにした。テーマは以下の通りである。

第２回　I recommend Japanese _____.
第３回　My dream.
第４回　Write about you 5 years from now.

第１回のテーマから、１を選択した学生は 12 人、２を選択した学生は 11 人であった。この回と、辞書を使用したフリーライティングの第１回の数値を比べてみる[13)]。辞書使用なしの平均単語数は 38、辞書使用ありの初回は 40 であり、ほぼ同様の数値となった。辞書使用なしの最多単語数は 72、最少単語数は 9 であり、辞書使用ありの最多単語数は 73、最少単語数は 11 であり、大きな差は見られなかった。学生のコメントから推察できるように、辞書を引くのに時間がかかり、書く時間が削減されるために単語数が減少するかと予想したが、結果は２単語増加であった。

さらに、後期の 12 月 21 日に行った辞書使用の第２回フリーライティングでは、事前にテーマを知らせて準備の時間を確保するようにした。この結果と 10 月４日に事前にテーマを知らせて行った辞書使用なしの２回目の結果を比較する。辞書使用なしの平均単語数は 46、辞書使用ありの２回目は 73 であり、27 単語の大きな差が表れた。これについては辞書使用の効果というよりも、回数を重ねたフリーライティングの成果

によるところが大きいと考える。なぜなら、事前にテーマを発表することは6回のうち4回行っているため、準備のしかたにも、準備の内容を当日の英文に表現する工程にも習練ができていると推測できるからである。しかし、辞書使用が全く関わっていないとは考えにくく、たとえば事前の準備段階で難しい単語を用いて英文を書いた場合、当日の辞書使用により、その場ですぐに再確認をして書くことができるという側面もあると考えられる。また、辞書使用なしの最多単語数は89、最少単語数は14であった。一方、辞書使用ありの最多単語数は105、最少単語数は15であった。辞書使用の最多単語数は辞書使用なしを16単語上回り、大きな差が表れた。この主たる理由も平均単語数の差と同様であると推測する。その反面、最少単語数の差は1単語であり、数値としてはほとんど差が表れなかった。参考までに、第3回と第4回の最多単語数と最少単語数も見てみたい。第3回は最多単語数102、最少単語数23、第4回は最多単語数104、最少単語数32である。この数値を見ると、辞書なしで4回継続的に行うことで最少単語数は9から32に増加した。しかし、辞書使用ありについては2回の計測であるため、同様の傾向を示すか否かは不透明である。しかしながら、辞書の使用に慣れ、活用法も身に付けていくならば、辞書使用なしと同様に単語数を伸ばすことができるのではないかと推測する。そのためには辞書使用の頻度を高め、辞書指導の機会を増やすことが不可欠である。

以上のことから、今回行った制限時間内に書かれるフリーライティングの単語数は、辞書を使用することによって増加したと言える。

5．辞書活用の方法と指導法

前章で提示した学生のコメントから、2つの点について指導法を検討していきたい。第1はフリーライティングにおいて、英文の単語数を思うように伸ばすことができない学生の障害となっているのは、学生の辞

書との関わり方ではないかということである。その学生がフリーライティングにおいて時間内に書いた英文、日本語のコメント、そして日常的な授業態度を総合的に見た上で、辞書を使用する、しない以前に、辞書をどのように使用するのかという根本的な問題が存在すると認識した。要するに辞書指導が充分ではなかったために、辞書を調べるのに必要以上に時間がかかり、辞書を存分に活用するまでに至っていない状態である。このような学生には、まず初歩的な辞書の使用法に立ち返って指導を行い、繰り返し辞書を調べることを継続させ、辞書に慣れ親しむ機会を確保する必要がある。そのような辞書指導の基盤を構築した上で、辞書の活用法、さらには最近の辞書メディアとしての辞書アプリやウエブ辞書の使用法の指導を施すのが良いと考える。それらすべてを学んでから、辞書の使い分けを自らの価値基準と判断によって行うことができるなら、単なる辞書使用についての学修に留まることなく、次の学びに進んでいくことができると考える。

第2は「紙の辞書は全てを頼らないで引けるから能力向上に繋がる。電子辞書はいろいろ出てくる。便利すぎる。」とのコメントを書いた学生についての指導である。この学生は冊子辞書をよく調べ、かつよく読んでいる。授業でも常に辞書を引き、真剣に読んでいる。フリーライティングの毎回の単語数も常に80前後であり、内容も使用する語彙も構成もすべて良く、常に上位の評価を与えられている。その源泉は冊子辞書の活用であると認識している。冊子辞書を十分に活用できており、学習効果をあげている。しかし、冊子辞書での学習方法が完成されつつあるがゆえに、電子辞書とは距離があるようにも見える。「便利すぎる」と電子辞書について記しているように、電子辞書を冊子辞書ほどには活用していないのではないだろうか。この学生は電子辞書の使用法を初歩から学ぶと、電子辞書ならではの多くの便利な機能を理解し活用できるようになるはずである。冊子辞書と同様に電子辞書も使いこなせるよう

になれば、相乗効果が生じ、辞書を通して英語という言語をより深く理解することになる。それが次の段階の学びにつながることは言うまでもない。

英語教育に関しては、少なくとも冊子辞書と電子辞書の使用方法は、義務教育の期間内に指導を受けられるのが望ましいと考えている。できるならば、指導の継続が機能するようなシステムの構築が望ましい。しかしながら、授業においての聞き取り調査では、ほとんどの学生が中学校、高等学校での英語の授業において、これまでに辞書指導というものを受けたことがない、あるいは受けた記憶がないと答えている。ここで、文部科学省の「中学学習指導要領」と「高等学校学習要領」を見てみる[14)]。

英語辞書指導に関しては、文部科学省「中学校学習指導要領」には、次のようにある。

> 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること。授業での自己表現活動を自発的に行ったり、家庭での教科書から離れた英語学習などに持続的に取り組んだりする上で、辞書を活用できることは必要不可欠である。辞書の使い方に慣れさせるためには、生徒が適宜辞書を繰り返し使用し、調べたい単語を辞書を使って自由に調べるということを普段から行わせる必要がある。なお、辞書指導に関しては、３年間を通して適宜辞書を活用させることが大切である。

また、「高等学校学習要領」には、次のように記されている。

> 辞書の活用の指導などを通じ、生涯にわたって、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるようにすること。
>
> 外国語の学習において、積極的に辞書を活用することは、生徒の主体的な学習態度を育てる上で大切である。中学校で身に付けた辞書の使い方を基礎として、外国語を理解したり表現したりする上で助けになるような効果的な辞書の使い方を指導することなどによって、生徒が自律的な学習態度や様々な学習方法、さらには、コミュニケーションへの積極的な態度を身に付けられるように工夫をすることが大切である。

また、生涯にわたって、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるために、辞書の活用の指導に加えて、図書館やインターネットなどを利用して広く情報を収集し、活用することが出来るように指導することも大切である。

このように、中学校では「辞書の使い方に慣れ、活用できるようにする。」とあり、また、高等学校では「積極的に辞書を活用することは主体的な学習態度を育てる上で大切である。」としている。辞書指導がいつ、どこで、どのようになされたか否かではなく、必要があると認めたその時点で辞書指導の実施が可能であることが重要であり、かつ指導は確実に実施されなければならない。短期大学においても、大学においても、辞書指導は不可欠であり、継続的かつ多面的な指導が大切である。英語教育全体として考えるならば、小学校での英語教育という面からも、早期の辞書指導の必要性は言うまでもない。そして、英語教育のどの段階においても必要に応じて、辞書指導を受講できる環境整備が必要である。その上で、様々な種類の辞書を用いた辞書指導法の構築も不可欠である。

注

1）一般社団法人ビジネス機会・情報システム産業協会「電子辞書の年別出荷実績推移」2017 年
2）カシオ計算機ホームページ：http://www.casio.co.jp/
3）國吉初美（2003）p.193
4）井之川睦美（2009）p.13
5）資料 1 参照
6）資料 2 参照
7）Burt, M. K.(1975) p.56-58
8）資料 3 参照
9）文法的な誤りではあるが、このままで意味は通じている。よって local

error とも言えるが、今後の対応についてはさらに研究した上で検討する。

10）資料 4 参照

11）佐藤桐子（2011）p.87

12）佐藤桐子（2011）p.79

13）資料 1 参照

14）文部科学省ホームページ：www.mext.go.jp/

参考文献

Burt, M. K.（1975）Error analysis in the adult EFL classroom. *TESOL. Quarterly,* 9

井之川睦美（2009）「辞書使用の可・不可がどのように時間制限のある英作文に影響を与えるか」『北東アジア言語教育学会　Working Papers 2009』

磐崎弘貞（2007）「辞書検索力と英作文」『英語青年』Vol. CLIII.— No, 7

國吉初美（2003）「課題によるパラグラフライティングから口頭発表へ：英作文から英語の発話までの指導の授業手順」『神奈川大学言語研究』26 号

佐藤桐子（2011）「大学生の英文法力とライティング力の相関性」『熊本学園大学　文学・言語学論集』第 18 巻第 1 号

関山健治（2017）『英語辞書マイスターへの道』東京：ひつじ書房.

関山健治（2005）「辞書をどう教えるか　── 電子辞書を視野に入れた辞書指導の方向性 ──」「言語と人間」研究会（編）『ことばと人間』第 5 号

関山健治（2007）『辞書からはじめる英語学習』東京：小学館

関山健治（2005）「電子辞書の最前線　── どう選び，使い，教えるか ──」『英語教育』Vol.54　No.1

寺嶋健史（2005）「英語教育における電子辞書事情　── 先行研究を概観して ──」『言語文化研究』第 25 巻第 1 号

寺嶋健史（2007）「現職英語教員の学生時代の辞書使用に関する一考察」『言語文化研究』第 27 巻第 1 号

資料 1

フリーライティングの単語数

	9月21日	10月4日	11月2日	11月30日	12月14日	12月21日	平均値
学生 1	39	40	62	79	44	82	57.7
学生 2	45	31	83	79	53	96	64.5
学生 3	33	39		86	36	68	52.4
学生 4	41	20	70	82			53.3
学生 5	32	29		40	40		35.3
学生 6	17	18	34	48	20	32	28.2
学生 7	64	39	89	59	43	82	62.7
学生 8	72	72	101	73	73	88	79.8
学生 9	38	38	38	49	31	42	39.3
学生 10	34	89	102	104	67	105	83.5
学生 11	21	65		60	37	92	55.0
学生 12	47	44	53	56	35	81	52.7
学生 13	25	14	26	32	11	15	20.5
学生 14	46	65	51		40	100	60.4
学生 15	31	21	37	70	18		35.4
学生 16	36		51	42	33	47	41.8
学生 17	9	49	46	67	27	76	45.7
学生 18	39	81	74	64	43	94	65.8
学生 19	43	70	65	84	51	84	66.2
学生 20	55	44	45	50	43		47.4
学生 21	30	49	23	71	32	61	44.3
学生 22	33	51		51	49	74	51.6
学生 23	51		59		64		58.0
平均値	38	46	58	64	40	73	

個人情報保護のため出席簿とは順番を変更して掲載している。

資料 2

「Writing I、II」を履修した学生のフリーライティング原稿を原文のまま掲載する。テーマの後の（　　）内の数字は単語数を表す。以下、資料３、４も同様。

後期　第 1 回　9 月 21 日　　Which season do you like best?（38）

My best season is spring. Because spring is warm. And I like cherry blossom. There is a cherry blossom tree near the my house. I always see it when I was student. But I have lived in Sapporo.

資料 3

後期　第 1 回　9 月 21 日　　Which season do you like best?（47）

I like summer the best. Because tempalture is just good. Also summer has a lot of exciting things. For example, summer festival, a fireworks display, BBQ, camping, driving, to go sea, and fireworks. I can wear Yukata in Summer festival and a fireworks display. Yukata is good.

資料 4

後期　第 1 回　9 月 21 日　　Which season do you like best?（34）

I like best season is spring. Because it is beautiful season. It is enjoy Hanami. Most of us enjoy seeing Hanami. It is so beautiful. And enjoy. Second reason is. It is worm season.